


 医師


## 身近な診療科：泌尿器科

泌尿器科部長 小谷 俊一

「泌尿器科（ひにようきか）」と聞かれて、「何となく恥ずかしい」「皮膚科とどう違うの？」などを思い浮かべられる方も多いかと思います。実際、何年も悩んで、一大覚悟をして初めて泌尿器科を受診される患者さんも時々みえます。

泌尿器科で扱っている疾患は、尿路（尿が作られ排泄されるための臓器：腎臓、尿管、膀胱、尿道）及び男性生殖器（精巣、精巣上体、精管、精嚢、前立腺）に発生する疾患です。具体的には、良性疾患（炎症、尿路結石、排尿障害、外傷、先天性奇形、男性不妊、男性性機能障害など）と悪性疾患（前立腺癌、膀胱癌、腎癌、腎盂癌、尿管癌、精巣癌など）に分かれます。また、皮膚科とは完全に別の科で、扱う疾患も一部の性感染症を除いては全く異なっております。

この中でも最近、以下の①、②、③が増加中です。

①排尿障害：高齢化社会になり、男性では前立腺肥大症に伴う排尿困難、残尿の増加、また男女ともに過活動膀胱による尿意切迫感や頻尿、重症例では尿失禁も見られます。このため、夜に何回もトイレに起きて、睡眠不足や、夜間の転倒など生活の質の大幅な下落を余儀なくされている方も多いと思います。またせっかく時間ができて旅行などに行こうと思って

も外出先でのトイレが不安で自宅に閉じこもってしまう方もいらっしゃいます。

②前立腺癌：最近のPSA検診の普及で早期発見される患者さんが増加しており、国立がんセンターの2015年予測では、男性で新たに癌と診断される部位別癌罹患数では前立腺癌がトップになっております。

③尿路結石：腎臓や尿管の結石が大半を占めます。この内、小さな結石（通常5mm以下）は自然排泄が期待できますが、それ以上では外科的処置が必要とされています。また余り世間では知られていないのですが、施設で寝たきりの高齢者では小さな結石でもこれが尿路を閉塞させ、重症の尿路感染や敗血症を引き起こすケースが増加しており、医療界では大きな問題となっております。

以上、泌尿器科の概要を解説させていただきましたが、高齢化社会での泌尿器科の重要性は今後ますます増加することが予想されます。気にかかる症状があるかたはどうか早めに受診してください。

なお、日本泌尿器科学会のホームページでは、一般の皆様向けに泌尿器科の症状を詳しく解説しておりますので、参考にしてください。

日本泌尿器科学会 検索



★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さんの建設的な意見を反映する広場として発行しています。